

第4回栽培・飼育教材開発コンクールの審査結果と講評

審査委員長 平尾健二

幼児教育・保育施設、小学校、中学校、高等学校ならびに特別支援学校の教員を対象に、昨年度、第4回栽培・飼育教材開発コンクールを開催いたしました。以下、審査結果と講評についてご報告いたします。

本コンクールの内容として、以下の2部門を設定し募集を行いました。

(応募期間 2022年11月1日～2023年2月5日)

① 人格形成・知識理解部門

・・・子どもの人格形成・発達や、基礎的知識の習得に関する教育
(主に幼児教育・保育施設、小学校、中学校、特別支援学校)

② 農業技術・農業人材育成部門

・・・農業に関わる専門的技術・人材の育成に関する教育
(主に中学校、高等学校)

コロナ禍が続き、様々な授業実践が制限を受ける中、11件の応募をいただきました。まずは、応募いただきました各先生方をはじめ、ご協力いただきました学校関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

① 人格形成・知識理解部門 応募数：9件

② 農業技術・農業人材育成部門 応募数：2件

審査は、委員長：平尾健二（学会副会長・福岡教育大学）、審査委員：浅野陽樹（鹿児島大学教育学部）、竹村久生（浜松学院中学校）、勝川健三（弘前大学教育学部）、田中大介（農研機構遺伝資源研究センター）、門脇正行（島根大学生物資源科学部）の6名で実施しました。各審査員による事前評価、オンラインによる審査会を行い、最優秀賞1件、優秀賞5件を選出しました（下表）。また、惜しくも受賞には至りませんでした。高いレベルでの教材開発の成果をご紹介いただきました方々には奨励賞をお贈りすることとしました。ご応募いただきました皆様の教材研究へのご努力に対し、心より敬意を表します。

最優秀賞ならびに優秀賞の受賞者には表彰状と記念品、奨励賞の受賞者には表彰状を贈呈いたしました。また、審査結果として、各審査委員からの評価・アドバイスをまとめたものを講評として、希望された方々にお送りいたしました。今後の教材開発研究の参考にしていただければ幸いです。

第4回栽培・飼育教材開発コンクール受賞教材（作品）

①人格形成・知識理解部門	
最優秀賞	小枝洋平（弘前大学教育学部附属特別支援学校） 「知的障害の生徒と取り組むワタ栽培・紡績活動の実現」
優秀賞	坂之上尚也（鹿児島県薩摩川内市立育英小学校） オリジナル学級園を活用した栽培活動
優秀賞	實地拓也（鹿児島大学教育学部附属小学校） 生き物も自分たちも楽しいビオトーププロジェクト
優秀賞	有吉優樹（福岡県宮若市立宮若西中学校） 技術室内で完結する作物及び水産生物の栽培実習教材
②農業技術・農業人材育成部門	
優秀賞	清水良憲（山梨県立北杜高等学校） 試行錯誤するスキルを伸ばす殺菌効果検証実験
優秀賞	加瀬利憲（北海道中標津農業高等学校） ひまわり栽培によるカーボンニュートラルの実践

最優秀賞は①人格形成・知識理解部門にて1件のみとしました。小枝洋平先生の「知的障害の生徒と取り組むワタ栽培・紡績活動の実現」では、特別支援教育の分野において、工芸作物であるワタの栽培（生産）と加工をつなぐ学習を考案し、生徒が実施できるものにした点、栽培、紡績を通じて生徒の内発的動機を高める工夫が随所に施されている点、本学習をきっかけに染色活動や搾油活動などに派生、発展している点が高く評価されました。②農業技術・農業人材育成部門においては、最優秀賞を選出するには至りませんでした。優秀賞を受賞されたお二人の教材は、高校（農業科）を舞台とし、生徒の主体的な学びを導く優れたものであると評価されました。

審査委員会が目にしたのは、開発した教材をもとにした実践が全国の学校現場における取り組みの参考になる実行性の高さ、さまざまな学校種における「農業教育」の深化・発展を目指す上での影響力の大きさであり、今回、それらを満たす教材が数多くみられました。各受賞者のそれぞれの実践内容は、農業教育における実践研究として、ぜひ、本学会の講演会にてご発表いただきたいところです。

次回のコンクールにおきましても、さらに多くのご応募をお待ちしております。